

# 会議結果報告書

平成30年7月26日

会議の名称	平成30年度第1回志木市健康づくり市民推進協議会
開催日時	平成30年6月28日(木) 午後1時30分～3時30分
開催場所	志木市役所 4階 全員協議会室
出席委員	山下和彦会長、小山博久副会長、谷合弘行委員、前野房子委員、星野賢委員、小松喜六委員、金敷禎子委員、村田敬吾委員、小松順子委員、濱田好江委員、西和江委員、滝沢麻子委員(石原先生代理出席)、田代健委員、飯田順一委員 (計 14人)
欠席委員	鎌田昌和委員、渡部日恵委員、日東明子委員、谷岡正吉委員、清水正子委員、原田由美子委員、齋地満委員、大熊啓太委員 (計 8人)
説明員職氏名	清水健康政策課副課長、金澤健康増進センター所長、飯塚奈巳健康増進センター主査 (計 3人)
議題	(1) 志木市いろは健康21プラン(第4期)の策定について (2) (仮称)市民のこころと命を守るほっとプランについて
結果	別紙、審議内容の記録のとおり (傍聴者 0人)
事務局職員	村上孝浩(健康福祉部長)、豊島俊二(健康福祉部次長)、今野美香(健康福祉部参事兼健康政策課長)、清水裕子(健康政策課副課長)、志田真由美(健康政策課主幹)、伴恭臣(健康政策課)、貫井なおみ(健康政策課)、金澤嘉子(健康増進センター所長)、飯塚奈巳(健康増進センター)、古瀬友理(健康増進センター)

## 審議内容の記録（審議経過、結論等）

### 1 開 会

### 2 議 題

(1) 志木市いろは健康21プラン（第4期）の策定について

(2) (仮称) 市民のこころと命を守るほっとプランについて

業者より「志木市いろは健康21プラン（第4期）」の構成案と第3期計画の評価・判定について説明を行った。

続いて、業者より、昨年度の意識調査結果からわかることと、「(仮称) 市民のこころと命を守るほっとプラン」の構成案について説明を行った。

また、事務局より「(仮称) 市民のこころと命を守るほっとプラン」の重点施策（案）の説明を行った。

委員長：「志木市いろは健康21プラン（第4期）」について、重点的に取り扱うターゲットを絞った方が良い。歯科分野はもう少し改善に向けた努力が求められる。また、外遊びについて特に子どもがターゲットとして考えられる。志木市として特に課題と捉えている事柄はないのか。

事務局：特定健康診査の受診率、特定保健指導の実施率が目標値を下回っている。また、疾病別医療費割合をみると、循環器系の疾患が最も多くなっており、がんの医療費よりも循環器系の医療費が高くなっている。生活習慣病関連医療費の構成比をみると、腎不全、糖尿病、高血圧性疾患が高くなっている点も課題と捉えている。

委員長：慢性疾患対策を進めなければならない。本日は志木市の医療費構造を紹介するとともに、これまで志木市で行ってきた歩数データのモニタリング結果などを報告する。スライドを参照していただきたい。

### 【～委員長よりスライドを用いて講義を行った～】

委員長：それでは、以上までの説明・報告事項を踏まえて、委員の皆さんが今後協力できることを教えていただきたい。

委 員：ノルディックウォーキングの全国大会を終えて、今後できることはノルディックウォーキングの体験教室を継続していこうと考えている。どの

ように展開するのかと、開催日の曜日設定についてワーキンググループで検討しているところである。今後はノルディックウォーキングの体験教室を広めていき、医療費の削減、市民の健康づくりにつなげていきたい。

委員：これまで薬局は処方箋を持ってきた人のみに対するアプローチしかしていなかったが、意識改革を行うことができると思う。特に、食事に関することは薬局としてできることがありそうだと考えており、管理栄養士と連携する取組が広がっている。

委員：小・中学校では様々な分野で保健指導を行っている。志木市の重点目標に沿った内容を盛り込んで指導できると考えている。命の授業を小学校で実施したが、中学校で実施していないので、中学校でも取り入れてもらいたい。

事務局：中学校で実施しなかった理由としては、「中1ギャップ」という新しい環境に馴染めていない子どもがいる集団を避けたかったため、小学校高学年を対象に進めた経緯がある。ただ、このまま小学校のみを対象として方法が効果的とは必ずしも言えないので、今後は対象を広げることを検討していきたいところである。

委員：歯の健康分野の評価をみると、小学校就学前から歯科保健指導を実施しているので評価として表れている。一方、高齢期には接する機会がなかったため、あまり評価が良くなかったのかもしれない。今はパソコンで自分の歯を健康診断できるプログラムがあると聞いたことがある。学校の先生など、誰でも使えるプログラムを普及させると良いのではないか。

委員：NPO 法人 クラブしっキーずではスポーツと福祉の分野で活動している。福祉分野ではシッキーズステーションを展開している。高齢者が集まって夕食を一緒に食べ、高齢者の家を小・中学生が訪問して交流するプログラムなどがある。スポーツではラジオ体操をしたり、金曜日に若者世代ができるように環境を整備したりしている。障害のある人向けには車いすバスケット用の車いすがあるので、障害者の人も参加できるプログラムを考えている。

委員：日常的な参加者に勉強会を開いて健康に関する情報提供していけると良い。

委員：本町地区でいろは元気サロン本町を開設した。もともと介護が必要ではない人を対象にしていたが、来訪者が少なかったのか、現在では介護保険を受けている人でないと参加できない条件がある。3ヶ月間だと効果

がないと思うが、測定して効果があると思った人はプログラムを辞めてしまう。辞めてしまうと、次に行くところがないと困っている。施設運営は委託業者が担っているが、サロンでのおしゃべり会は、ボランティアがまとめている。委託業者のプログラムがあると、サロンでの活動ができなくなってしまう。施設利用の制度が変わったら周知してほしいのだが、なかなか情報を得ることができなくて困っている。ボランティアもやりにくくなっている。

委員：老人クラブからみると、スポーツに力を入れるべきと考える。なかなか全員に対して網羅できなくて困っている。クラブではカラオケや運動や新しいことを始めようとしているので、地域を巻き込んで取り組みたいと考えている。

委員：地域での取組分野について、体育協会やレクリエーションの会員数が後退しているが、中学校・高校に対しては、統括団体が異なるので位置づけも違うと考える。中学校・高校については中体連、高体連があるので、別の管轄となっている。多種多様にスポーツに親しむ人が多くなっているため、対応が困難である。広く市民が集まれる場所をつくり、団体の認知度を高める取組が必要なのではないかと考えている。また、「みる」というのも参加のステップとして位置づけることも進めている。体育協会はボランティアだが、好きな人たちが市民の皆さんに知らせる取組を進めていきたい。これまで体育協会のホームページがなかったが、今年度開設するので、少しでも周知することができればと考える。

委員：食育を中心とした会である。これまで生活習慣病予防、栄養・食生活の勉強をしてきたが、健康づくりの柱としている減塩活動に力を入れたいと考えている。子どもに対する食育の機会もできるだけつくろうと考えている。

委員：社会福祉協議会の立場からみると、サロンを通じて世代間交流を充実させていきたいと考えている。小規模での交流の場を積極的に活用したい。孤食については、子ども食堂の開設支援をしている。

副委員長：全体医療費の半分を、人口の3%が費やしている。健康プランとの整合性を踏まえたいと考えている。

委員長：次回の会議に向けて、委員の皆さまにはこれまでの取組状況をご報告いただきたい。また、事務局には、計画の具体的な案をお示しいただきたいと考える。

(3) その他

事務局：次回の会議は7月19日（木）を予定している。